

市民認知を継承する津波碑の保存展示に関する研究
 東南海地方 5 府県における現地調査結果に基づく考察

Study on the preservation of the monument exhibition tsunami that inherits the citizen perception
 Consideration based on the result of the field survey in 5 prefectures

○秋本悠喜¹, 桜井慎一²

*Yuki Akimoto¹, Shin-ichi Sakurai²

After it was tsunami, old people built many monuments means funeral and tsunami's lesson. But modern people forget monuments and tsunami's threat. Because, damage to the monument, growth and redevelopment of the city. Therefore, I have researched lesson's monument about installation site and management conditions on field survey. As result, we read without any problem that monument's letter about 14.2% monuments.

1. 研究背景および目的

現在、地震津波などの防災に歴史学を生かす動きがある¹⁾。先人達は後世に津波被害の教訓などを伝えるために古文書や津波碑を残している。これらから、被災地の復興の在り方や今後の防災を考えるとこのものである。また、日頃から見えるものとして津波碑は、先人達の教訓を見つめ直す材料にもなっている。

筆者らは、先行研究において岩手県²⁾、千葉県³⁾、高知県や徳島県⁴⁾でも多くの津波碑を確認することができている。しかし、津波碑は建立から長い年月を経るとともに、碑文が風化していくことや道路幅拡張などの街の成長・再整備により津波碑が移転させられ、人の目に触れにくい場所に移設されるなど、世間から忘れられた存在になってしまう事例も数多く存在する。

そこで本研究では、津波が発生した場合の避難経路や避難場所、津波被害を避けるための住宅の建設場所など、後世への教訓が刻まれた津波碑（教訓碑）を調査する。また、建立場所における視認性、案内板の設置状況などを把握することにより、市民に認知されやすい保存整備の方法や石碑の活用方法を明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

過去において、1498 年明応地震、1605 年慶長地震、1707 年宝永地震、1854 年安政東海・南海地震、1944 年昭和東南海地震、1960 年チリ地震などの津波被害があった、三重県～高知県における太平洋沿岸域の東南海地方 5 府県を対象地とする。

5 府県における教訓碑は、文献調査 5)～9) より 35 基 (100%) の教訓碑を確認することができた。

表-1 調査概要

| | |
|------|----------------------------------|
| 調査方法 | 現地調査 |
| 調査期間 | 2013 年 7 月～8 月 |
| 調査対象 | 東南海地方 5 府県にある後世への教訓を綴った 35 基の教訓碑 |
| 調査内容 | 保存状態、建立場所による視認性、碑文の判読性 |

表-2 東南海地方に存在する教訓碑

| 所在地 | 番号 | 名称 | 対象地震 |
|------|----|----------------|---------|
| 三重県 | 1 | 清岩庵・安政津波碑 | 安政東海地震 |
| | 2 | 津波流失塔 | 安政東海地震 |
| | 3 | 地震津浪遺戒 | 安政東海地震 |
| | 4 | 津波流倒記 | 安政東海地震 |
| | 5 | 大震肅災記念碑 | 昭和東南海地震 |
| | 6 | 津波流死塔 | 安政東海地震 |
| | 7 | 吉祥院・安政津波碑 | 安政東海地震 |
| | 8 | 熊野市・津波碑 | 昭和東南海地震 |
| 和歌山県 | 9 | 津浪之紀事碑 | 安政南海地震 |
| | 10 | 大地震津波心得之記碑 | 安政南海地震 |
| 大阪府 | 11 | 擁護壘 | 安政南海地震 |
| | 12 | 大地震両川口津浪記 | 安政南海地震 |
| | 13 | 四天王寺・津波碑 (複数基) | 安政東海地震他 |
| 徳島県 | 14 | 百度石 | 安政南海地震 |
| | 15 | 豊浦神社・津波碑 | 安政南海地震 |
| | 16 | 常夜灯台石 | 安政南海地震 |
| | 17 | 震災碑 | 安政南海地震 |
| | 18 | 南海震災史碑 | 昭和南海地震 |
| | 19 | 大震潮記念碑 | 安政南海地震 |
| | 20 | 浅川天神社・安政津波碑 | 安政南海地震 |
| | 21 | 津波十訓碑 | 昭和南海地震 |
| 高知県 | 22 | 観音山・津波碑 | 安政南海地震 |
| | 23 | 懲咎 | 安政南海地震 |
| | 24 | 浦戸稲荷神社・石碑 | 安政南海地震 |
| | 25 | 三里仁井田神社玉垣碑 | 安政南海地震 |
| | 26 | 宇佐町萩谷地震碑 | 安政南海地震 |
| | 27 | 震災復興記念碑 | 安政南海地震 |
| | 28 | 宝永津浪溺死之塚 | 宝永地震 |
| | 29 | 南海地震記録碑 | 昭和南海地震 |
| | 30 | チリ津波対策事業竣工記念碑 | チリ地震 |
| | 31 | 伊田海岸震災碑 | 安政南海地震 |
| | 32 | 南海大地震の碑 | 昭和南海地震 |
| | 33 | 安政津波の碑 | 安政南海地震 |
| | 34 | 津波碑 | 安政南海地震 |
| | 35 | 十字橋 | 安政南海地震 |

1 : 日大理工・院 (前) 海建

2 : 日大理工・教員 海建

本研究では、35 基の教訓碑を対象とした現地調査を行い、教訓碑の保存状態や建立場所による視認性、碑文の判読性を確認した（表-1）。

3. 結果および考察

本調査で把握できた教訓碑の一覧を表-2 に示す。

3-1. 建立場所における視認性の相違

教訓碑を建立場所ごとに分類した結果を表-3 に示す。「類型 I : 社寺」が 54.2% (19 基) と東南海地方では最も多くみられた。日常生活では人があまり訪れない場所であり、人通りのある入口付近ではない「敷地奥」には 8 基建立されていた。また、「III. 公園」3 基、「IV. 公民館」2 基、「VI. 学校」1 基と子供や高齢者が集う場所に建立されていた。

3-2. 碑文の判読性

教訓碑を碑文の判読性ごとに分類した結果を表-4 に示す。東南海地方の教訓碑は年代が古く、「類型 A : 古語・草書体で書かれており読みにくい」(写真-1) が 7 割以上と現代語で書かれているものは少ない。また、「類型 B : 汚れ・風化により読みにくい」(写真-2) が 6 割以上と年月により保存状態が悪化している例が数多く見られた。

「類型 C : 石碑でないものに碑文が書かれている」教訓碑が 3 基あった。石碑としてではなく、石橋の柱、石柱、常夜灯の台石 (写真-3) に教訓が書かれており、人々からは気付きにくいいため、案内板などが必要だと思われる。

3-3. 碑文の判読性の回復手段

碑文の判読性の回復手段を分類した結果を表-5 に示す。「類型 a : 案内板」(写真-4) は再建より比較的安価で行うことができ、現代語訳を載せることで人々に理解してもらいやすく、判読性を高めることができるが全体の約 4 割しかなかった。また、「類型 b : 再建」は 4 基あった。コストはかかるが、材質が良くなったことで風化し難い材質になっていた。しかし、再建は行い、旧碑は破損した状態で修繕を行わず放置している場所も見られた (写真-5)。

「類型 c : パンフレット」(写真-6) が置いてある教訓碑が 2 基あった。パンフレットには、案内板よりも詳しい内容が書かれていることや、市街地の観光マップにもなっており、来訪者などにも津波の危険や避難の教訓を伝承する効果があると考えられる。

◆謝辞

本研究の一部は、日本大学理工学部における「東日本大震災復興プロジェクト」によるものであり、ここに感謝の意を表す。

表-3 建立場所による分類

| 類型 | 建立場所 | 該当数/総数 | 詳細 | 該当数/総数 |
|------|-------------|------------------|---------|------------------|
| I | 社寺 | 19/35 (54.2%) | 入口付近 | 11/35 (31.4%) |
| | | | 敷地奥 | 8/35 (22.8%) |
| II | 道路際 | 7/35 (20.0%) | 居住地域内 | 6/35 (17.1%) |
| | | | 居住地域外 | 1/35 (2.8%) |
| III | 公園 | 3/35 (8.5%) | 入口・出口付近 | 1/35 (2.8%) |
| | | | 敷地内 | 2/35 (5.7%) |
| IV | 公民館 | 2/35 (5.7%) | 公民館前 | 2/35 (5.7%) |
| V | 町役場 | 1/35 (2.8%) | 駐車場前 | 1/35 (2.8%) |
| VI | 学校 (旧校舎) | 1/35 (2.8%) | 校門付近 | 1/35 (2.8%) |
| VII | 地藏堂付近 | 1/35 (2.8%) | 居住地域内 | 1/35 (2.8%) |
| VIII | 山 | 1/35 (2.8%) | 山頂 | 1/35 (2.8%) |

表-4 碑文の判読性による分類 (重複集計)

| 類型 | 状態 | 該当数/総数 |
|----------------------|--------------------|---------------|
| A | 古語・草書体で書かれており読みにくい | 26/35 (74.2%) |
| B | 汚れ・風化により読みにくい | 22/35 (62.8%) |
| C | 石碑でないものに碑文が書かれている | 3/35 (8.5%) |
| D | 破損している | 1/35 (2.8%) |
| E | 問題なく読める | 5/35 (14.2%) |
| 類型 A~E のうち、1つでも当てはまる | | 30/35 (85.7%) |

表-5 碑文の回復手段による分類 (重複集計)

| 類型 | 判読性の回復手段 | 該当数/総数 |
|----|----------|---------------|
| a | 案内板 | 13/35 (37.1%) |
| b | 再建 | 4/35 (11.4%) |
| c | パンフレット | 2/35 (5.7%) |
| d | 石版 | 1/35 (2.8%) |
| e | 改善策なし | 18/35 (51.4%) |

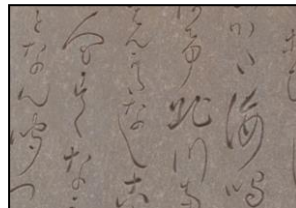


写真-1 草書体の碑文



写真-2 汚れた教訓碑



写真-3 教訓が書かれた台石



写真-4 案内板



写真-5 破損した旧碑



写真-6 パンフレット

【参考文献】

- 1) 日本経済新聞 2013 年 7 月 18 日朝刊：防災と復興に「歴史学」を生かす
- 2) 秋本悠喜, 鷹島充寿, 桜井慎一：市民認知を継承する津波碑の保存展示に関する研究, 日本沿岸学会研究討論会講演概要集 No. 26, 2013, 7
- 3) 秋本悠喜, 桜井慎一, 寺口敬秀：市民認知を継承する津波碑の保存展示に関する研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 10013, 2013, 8
- 4) 栗原聖子, 塚原紗衣, 桜井慎一, 秋本悠喜：市民認知を継承する津波碑の保存展示に関する研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 10012, 2013, 8
- 5) 羽島徳太郎：三重県沿岸における宝永地震・安政東海地震の津波調査, 地震研究所集報 Vol. 53 (1978), pp. 1191-1225
- 6) 行谷佑一, 都司嘉宣：宝永 (1707)・安政東海 (1854) 地震津波の三重県における詳細津波浸水高分布, 歴史地震 Vol. 20 (2005), pp. 33-56
- 7) 長尾武：大阪・四天王寺, 安政南海地震津波碑文の判読, 歴史地震 Vol. 27 (2012), pp. 77-84
- 8) 徳島大学環境防災研究センター：南海地震を知る徳島県の地震・津波碑, URL: http://www.jishin.go.jp/main/bosai/kyoiku-shien/13tokushima/material/ksm_22_3.pdf
- 9) 毎日新聞高知支局, 歴史探訪 南海地震の碑を訪ねて 石碑・古文書に残る津波の恐怖, 2002, 11